



看護実践能力(コンピテンシー)
基盤型システムによる
学習・教育の構造・過程・成果の可視化

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科
大学院医療保健学研究科
准教授 西村礼子

西村礼子(看護学博士)Ayako Nishimura

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 基礎看護学領域

医療保健学研究科 看護実践開発学領域 准教授

【専門】基礎看護学・看護教育学



【学歴・職歴】

◆名古屋大学医学部保健学科看護学専攻卒業

◆順天堂大学医学部附属順天堂医院混合病棟看護師

◆東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 博士前期・後期課程修了看護学博士

◆東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 非常勤

◆東京医科大学医学部看護学科助教

◆現職

【研究テーマ】

- ICT活用をしたアクティブラーニングによる授業設計の学習支援・教育効果・業務改善
- シミュレーション教育におけるフィジカルアセスメント・臨床判断の看護実践能力

【出版物】

- 連載:看護教員のICT活用教育力UP講座(12回),看護教育62,医学書院,2021

【セミナー】

- 講義・演習・実習をつなぐバーチャルシミュレーション
- 教育用電子カルテ・シミュレータを活用した看護過程・臨床判断Simulation授業設計
- withコロナからPostコロナへ教育をつなぐICTを活用した授業設計
- カリキュラム・授業設計にICTを組み込むポイント:医学書院カリキュラム編成セミナー

【競争的資金】

- 2020年-2024年「解剖生理学に基づく臨床判断がシミュレーションでの看護実践能力に与える影響」日本学術振興会:科学研究費助成事業,代表者

【西村の看護教育に対するmotto】

- 現代社会・医療・教育のニーズに基づく看護教育(看護基礎教育・継続教育)を実践し、看護学生・看護教員・看護職の看護実践能力を育成!
- 自身の看護実践・教育・学習・管理上の能力開発を実施、個人・組織・看護としての能力評価、医療・教育・社会への成果(看護の質向上+看護提供を通して国民の健康に寄与する仕組み)を示すことができる。

10年後の社会・医療・教育に貢献できる人材育成と仕組みを作る!



西村礼子(看護学博士)Ayako Nishimura

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 基礎看護学領域

医療保健学研究科 看護実践開発学領域 准教授

【専門】看護教育学 ICTを活用した授業設計の学習効果

各ツール・各能力の可視化
「看護実践能力」は評価できない！
看護教育のDX化は進まない！

眼球運動測定器
近赤外線分光計測装置
(脳血流動態)



高機能シミュレータ
中機能シミュレータ
総合情報システム
グループウェア



バーチャルシミュレーション
VR教材
電子カルテ教材



看護教育(株式会社 医学書院)



LMS(Moodle)
ipad/アプリ
電子書籍
動画教材
LTI



LMS(C-learning)
LMS(WebClass)
動画教材
Web会議システム



Medi-EYE(株式会社Medi-LX)

学習・教育の構造・過程・成果の可視化の必要性

VUCA: Volatility(変動性) Uncertainty(不確実性) Complexity(複雑性) Ambiguity(曖昧性)

DX: ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる Eric Stolterman.2004
Digitization: アナログをデジタル化、**Digitalization:** デジタル活用時の業務効率化と付加価値向上

現代社会の変化

Society 5.0(内閣府):

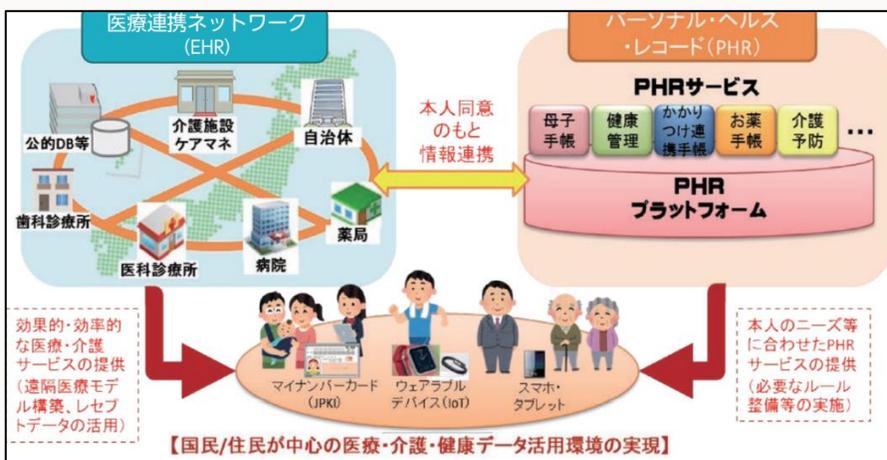


内閣府: Society 5.0 - 科学技術政策 - 内閣府
cao.go.jp 2021/10/22 accessed

- ・人工知能(AI)により必要な情報が必要な時に提供、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方過疎化、貧富の格差などの課題が克服。
- ・AI技術: 音声認識技術・自然言語処理技術・画像処理技術・情報検索技術, 教育における人工知能(AIED)

医療の変化

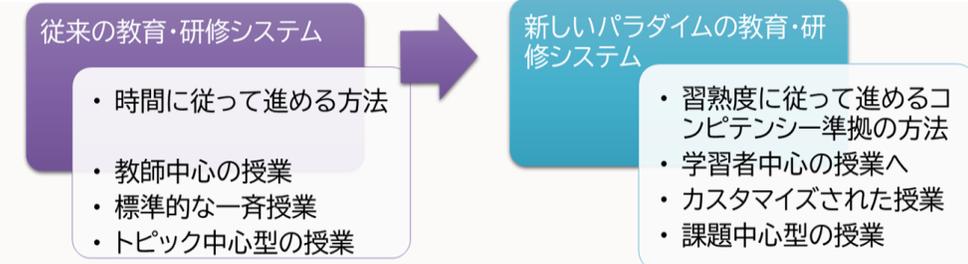
医療・介護・健康分野ネットワーク化推進: 総務省



総務省HP: 医療・介護・健康分野の情報化推進
https://www.soumu.go.jp/menu/seisaku/ictseisaku/ictrivou/iryou_kaiyou_koukou.html 2021/8/22 accessed

- 1) 医療・介護・健康分野の情報連携基盤の構築に向けた取組
- 2) 遠隔医療の普及促進に向けた取組
- 3) パーソナル・ヘルス・レコード利活用の推進
- 4) 医療情報連携ネットワークの高度化に向けた取組
- 5) 医療情報のセキュリティの取組

教育の変化



*コンピュータに基づくAI、認知的・社会的・情動的スキルや人間としての価値という両方の要素を組み合わせる、AI技術を世の中をよくする方向で使っていくための想像力と自覚や責任感
 白井俊 著: OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来, ミネルヴァ書房, 2020

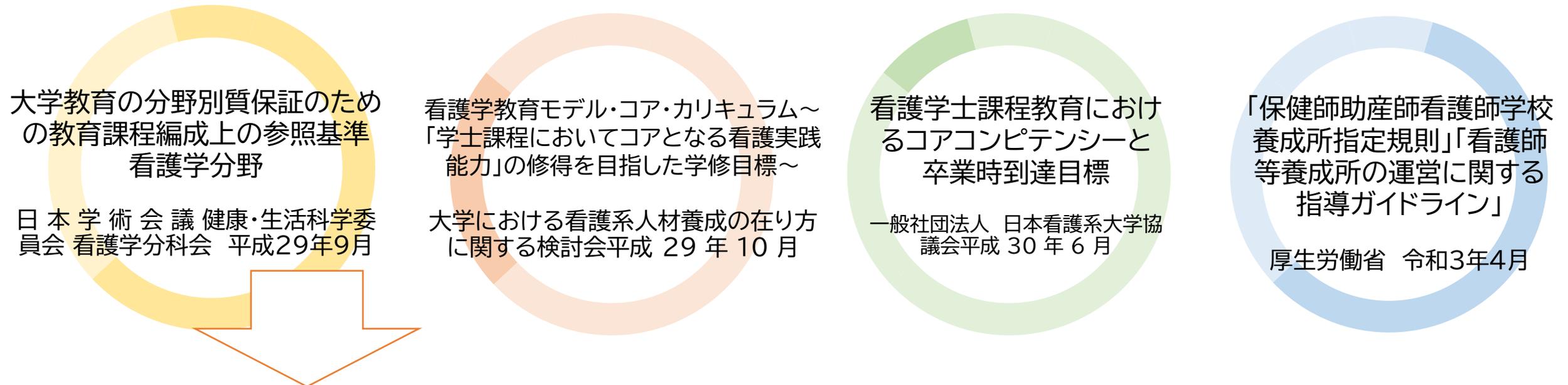
文部科学省「Society 5.0に向けた人材育成-社会が変わる、学びが変わる-」

- 共通して求められる力:
- 文章や情報を正確に読み解き対話する力
 - 科学的に思考・吟味し活用する力
 - 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力
- 新たな社会を牽引する人材:
- 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材
 - 技術革新と社会課題をつなげプラットフォームを創造する人材
 - 様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材

情報活用能力は、コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力であり、基本的な操作技能やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含む(文部科学省: 学習指導要領解説の要約)

学習・教育の構造・過程・成果の可視化の必要性

- * 看護学士課程で学ぶすべての学生が身につけるべき基本的素養
- * 看護系人材として求められる基本的な資質・能力
- * 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標
- * 看護師教育の基本的考え方



「卒業時に到達すべき能力を明確にし、看護の技術を評価する仕組みを持つべき」

学習・教育の構造・過程・成果の可視化の必要性

現代社会
ニーズ

特に看護は誰一人取り残されない・手厚い学習の質保証
毎年5万人以上の看護職を社会(多様な場)に送り出す責務

看護教育は単科・1教育機関の規模が小さい
教育支援センター・教育専任・システム専任がない=ワンオペ
入学前の学生の質保証できない・カリキュラムが過密化

現状

教育・学習の成果・構造・過程の可視化は各学生・各教員・各組織の自助努力
限界！過重負荷！疲弊！（現場からの声・悲鳴）

課題

すべて個別
対応

看護の前に
基礎学力・
PC教室

365日24時間
学生も教員も稼働

マニュアル
だらけ

授業設計や効果検証
の時間確保できない

ICTを使わない
方が楽。

課題でいっぱい

組織として評
価できない

DX化:業務効率・付加価値向上どころかアナログをデジタル化も難しい

学習・教育の構造・過程・成果の可視化の必要性

教材・ツールが開発

①データ散在
学生・教職員の
過重負荷・格差

④組織としての
カリキュラムマネジメント
教学マネジメント

教育成果は学生の授業評価

③教員の

教育成果

教育実践能力

ティーチングポート

フォリオ

学習成果は科目評価のみ

②学生の

コンピテンシー(成果)

看護実践能力

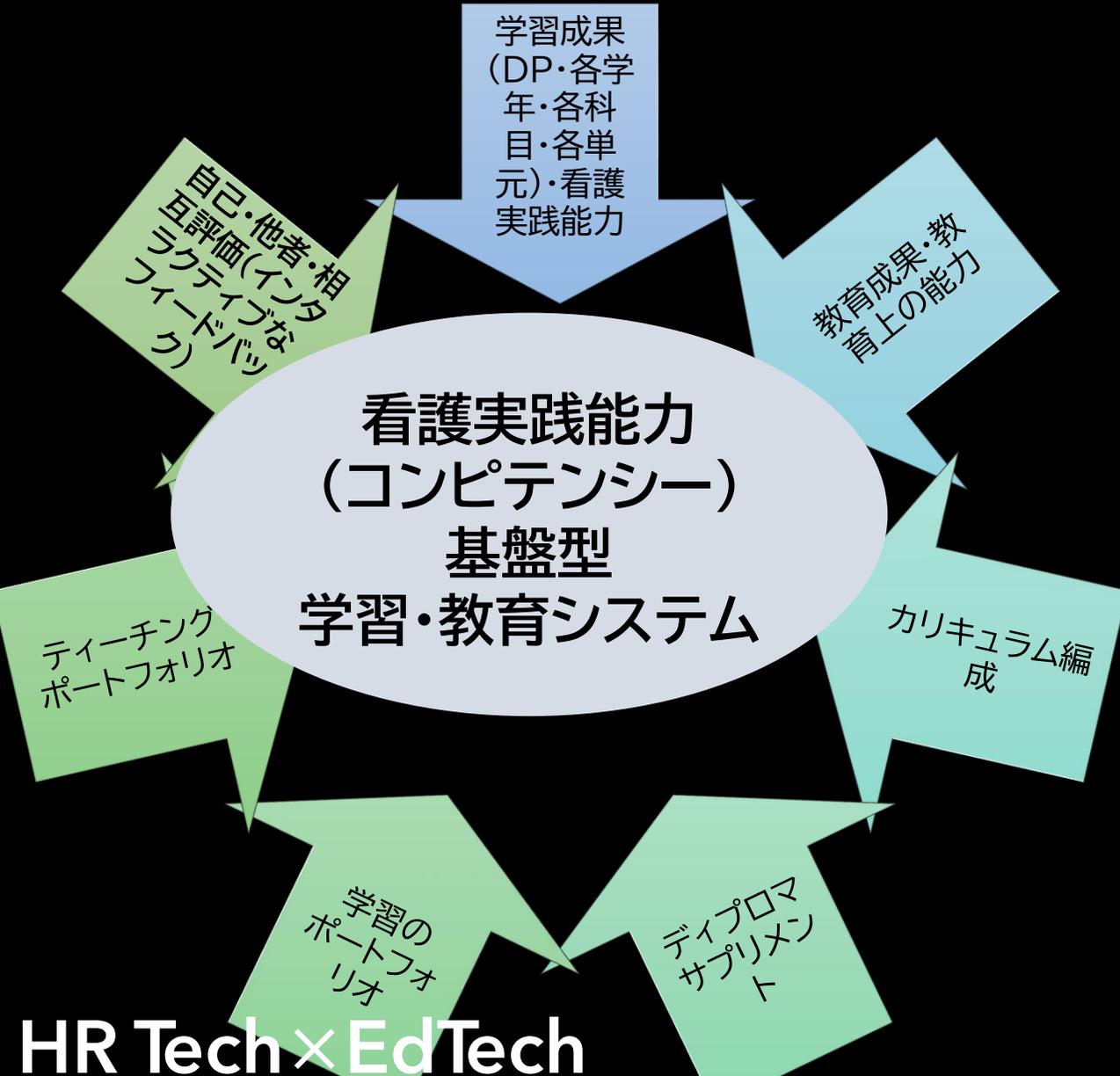
ポートフォリオ(過程)

ディプロマサプリメント

課題！

成果・過程・構造が可視化・システム化されていない

学習・教育の【構造・過程・成果】の可視化となる 看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム



教員・学生・組織
効果・効率的・システマティックな教育

DX化に取り残されない
学生・教員・教育全体の仕組み

自己・他者・相互評価できる人材育成
看護全体のボトムアップ

新しい教育のパラダイムシフト
習熟度に従って進めるコンピテンシー基盤型・学習者中心・カスタマイズ・課題中心型
(インタラクティブな授業設計)

学習・教育の【構造・過程・成果】の可視化となる 看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム

看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム

組織

カリキュラム・マネジメント

教学マネジメント

各学生・各科目・各学年

各教員・各領域

学習
成果

看護実
践能力

ポートフォ
リオ(成果)

ディプロマサ
プリメント

教育
成果

教育実
践能力

ティーチング
ポートフォリオ

学習・教育の【構造・過程・成果】の可視化となる 看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム

教学マネジメント:「教育目的を達成するために行う管理運営」として教育の質保証・点検・評価を実施、改革・改善に努める。

卒業時到達目標・学位授与方針(DP):各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

ディプロマサプリメント:本来Bologna Processに従ってEU各国での高等教育の質と水準の差を埋め、学位の互換性を高める目的(学位自体の質と水準を基準にしたがって表現したドキュメント)

カリキュラム・マネジメントとは、教育機関の教育目標を達成するために、組織としてカリキュラムを改善していく継続的な活動の総体。

カリキュラム・ポリシー(CP):ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

	DP1)技術の進歩に対応できる情報活用能力	DP2)対象の情報活用能力に合わせた看護実践	実習事例 個人差
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ●協働実践演習 ●遠隔(オンライン)診療 ●看護の統合実習 	<ul style="list-style-type: none"> ●チーム活動論 ●災害看護援助論 ●看護の統合実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習事例 ・実習領域 ・看護問題 ・看護成果
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ●保健医療福祉行政学 ◎医用機器概論 	<ul style="list-style-type: none"> ●公衆衛生看護学 ◎基礎看護援助方法V ◎小児・母性・老年・在宅看護援助論II 	
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ◎公衆衛生学 ◎疫学・保健統計論 ◎医療安全管理学 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報通信と保健医療 ●保健指導演習 ◎基礎看護援助方法III・IV ◎小児・母性・老年・在宅看護援助論 	
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ○情報リテラシー ○情報科学 ○データサイエンス 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活健康科学 ◎基礎看護援助方法I II 	

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」

厚生労働省令和3年4月

看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標

一般社団法人日本看護系大学協議会
平成30年6月

看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～

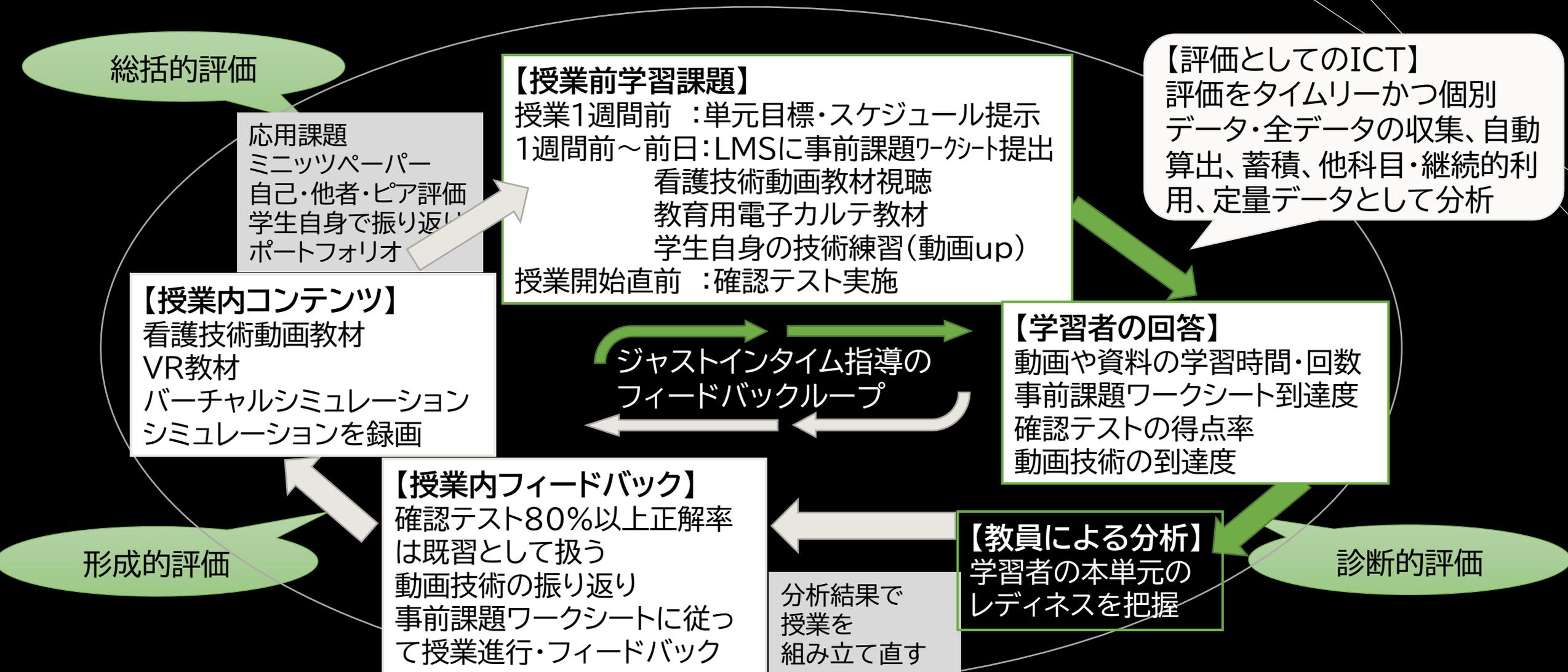
大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会平成29年10月

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準看護学分野

日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会平成29年9月

学生個人の学習歴

学習・教育の【構造・過程・成果】の可視化となる 看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム



西村礼子:看護教員のICT活用教育力UP講座第7回LMSを活用したJust-in-Time Teachingによる授業を実施しよう!看護教育62(4), 370, 医学書院, 2021.

学習・教育の【構造・過程・成果】の可視化となる 看護実践能力(コンピテンシー)基盤型 学習・教育システム

看護実践能力(コンピテンシー)基盤型
学習・教育システム



卒業時到達目標【DP】



各科目・各単元

学習評価(診断的評価・形成的評価・総括的評価)



現在のLMS

科目評価→各学生
【レーダーチャート】

- 卒業時到達目標
- 看護実践能力
- 診断・形成・総括的評価
- 実習での事例

評価

評価目的	診断的・形成的・総括的
評価主体	自己・他者・相互
評価基準	絶対・個人内・相対
評価対象	事前事後課題・テスト・レポート・発問・対話・実技・ポートフォリオ
評価方法	発言・提出物・成果物・ディスカッション・実技試験・OSCE・シミュレーション



第1回 感染予防技術/手指衛生の技術【講義・演習】

ファイル: 第1回授業スケジュール・事前課題案内	5 閲覧 - 直近の 2020年 05月 19日(火曜日) 00:53
ファイル: 第1回事前課題ワークシート	4 閲覧 - 直近の 2020年 05月 15日(金曜日) 11:07
課題: 第1回事前課題提出BOX	
提出ステータス	
提出ステータス	評定のために提出済み
評定ステータス	未評定
終了日時	2020年 05月 19日(火曜日) 00:00
残り時間	課題は 1日 10 時間 早く提出されました。
最終更新日時	2020年 05月 17日(日曜日) 13:24
ファイル提出	感染経路1.docx
提出コメント	コメント(0)
小テスト: 第1回確認テスト	
評点	1.60 / 2.00
受験1	4.00/5.00 - 2020年 05月 19日(火曜日) 09:30
小テスト: 第1回応用課題	
評点	
受験1	未評定/4.00 - 2020年 05月 19日(火曜日) 12:36
受験2	未評定/4.00 - 2020年 05月 19日(火曜日) 12:47
フィードバック: 第1回ミニツッパーパー	
ファイル: 第1回ミニツッパーパーの質問への回答	
未閲覧	
小テスト: 第1回確認テスト(復習用)	
評点	
この小テストは受験されていません。	

各学生・各科目・各学年

学習成果

看護実践能力

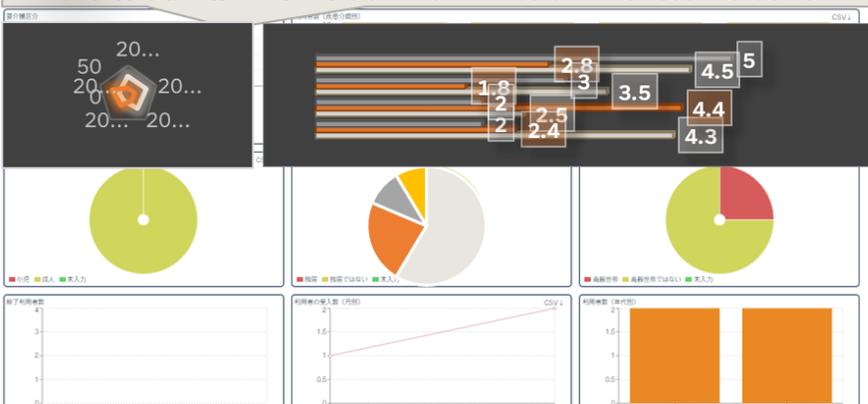
ポートフォリオ(成果)

ディプロマサプリメント

卒業時到達目標【DP】

各科目・各単元

学習評価(診断的評価・形成的評価・総括的評価)



10

- 科目の運用や成績だけではなく、、、
- 【学習成果】【看護実践能力】レーダーチャートなどで可視化**
- 卒業時到達目標・学年ごとの到達度
 - (厚労省や文科省)コンピテンシー、技術項目と達成度
 - 実習で実践した領域・事例・看護問題と成果の可視化
 - 事前事後課題や自己学習

看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表13-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 (改正案)

■卒業時の到達レベル
 <学習>
 I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
 II:モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
 <実習>
 I:単独で実施できる
 II:指導の下で実施できる
 III:実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類	卒業時の到達度	
		演習	実習
救急の援助技術	1 快適な療養環境の整備	I	I
	2 臥床患者のリネン交換	I	II
	3 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	I	I
	4 食事指導	I	II
	5 経管栄養法による流動食の注入	I	II
排泄援助技術	6 経鼻胃チューブの挿入	I	I
	7 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	I	I
	8 膀胱留置カテーテルの管理	I	III
	9 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	III
	10 洗腸	I	III
	11 摘便	I	III
	12 ストーマ管理	II	III

表9

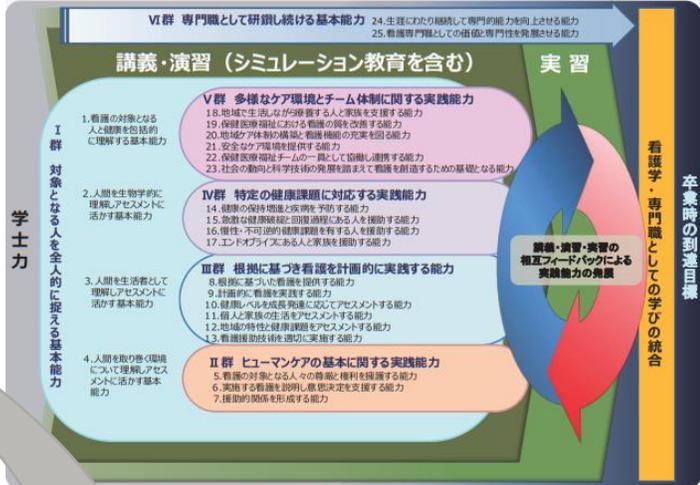


図1 コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造 (実習の詳細は図2を参照)

厚生労働省:看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン
<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>
 2021/11/4accessed

看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標:一般社団法人 日本看護系大学協議会(平成 30年6月)
<https://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf>
 2021/11/4accessed

WebClass
 基礎看護援助方法Ⅰ(身体と生活機能) 術の基本-バイタルサインの測定と日常生活の援助① (2021-前期-火1) 管理

教材一覧 教材 成績 出席 到達度自己評価 その他 メンバー コース管理 学生としてログインする ログアウト

タイムライン

定期試験

- 基礎看護援助方法Ⅰ 定期試験 更新 2か月前 実行回数 102
- 基礎看護援助方法Ⅰ 定期試験(トラブル用) 更新 2か月前 実行回数 1
- 基礎看護援助方法Ⅰ 追再試験 更新 2か月前 実行回数 3
- シラバス・ベッド配置・看護実習室使用上のルール 更新 5か月前 実行回数 115
- ベッド配置・107実習室へベッド番号表 更新 6か月前 実行回数 113
- 看護実習室(G107)使用上のルール 更新 6か月前 実行回数 106
- 第1回 オリエンテーション・感染予防技術(スタンダードプリコーション・防護用具・使用した器具の感染防止の取り扱い・感染性廃棄物・手衛生)【講義】10分間演習 更新 6か月前 実行回数 115
- 第1回授業スケジュール 更新 6か月前 実行回数 115
- 第1回事前課題ワークシート・WordをPDF形式にして提出 更新 6か月前 実行回数 115
- 参考文献:WordがPDFへの変換方法 更新 6か月前 実行回数 106
- 第1回課題テスト・授業開始前まで 更新 5か月前 実行回数 112

各教員・各領域

教育
成果

教育実
践能力

ティーチング
ポートフォリオ

教育実践



西村 礼子 NISHIMURA AYAKO

個人サイト

所属	医療保健学部 看護学科 / 大学院 医療保健学研究科
職位	准教授
学位・資格	看護学(博士・修士)/看護師・保健師
研究テーマ	【医療保健学部看護学科】看護学概論/基礎看護援助方法Ⅰ/基礎看護援助方法Ⅱ/基礎看護援助方法Ⅲ/基礎看護援助方法Ⅳ/クリティカルシンキングⅡ/基礎看護援助実習Ⅰ/基礎看護援助実習Ⅱ/看護の統合実習/キャリア教育Ⅰ/協働実践演習【大学院 医療保健学研究科看護実践開発学】看護実践開発学研究演習Ⅰ/研究演習Ⅱ

研究テーマ

シミュレーション教育におけるフィジカルアセスメントの看護実践能力
ICTを活用したハイブリッド型授業設計の学習効果・教育効果
解剖生理学に基づく臨床判断がシミュレーションでの看護実践能力に与える影響

最近の業績または代表的な業績(5年以内)

【著書・出版物等】

- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第12回「教育の学習者」である看護教員のインタラクティブ性, 2021.8.30
- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第11回オンライン教育ツールを活用して新しい教育/パラダイム, 2021.8.30
- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第10回「臨床判断を行うための基礎的能力」を育成する講義, 医学書院, 2021.6.28
- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第9回臨床判断を行うための基礎的能力を養う授業設計にICT, 2021.6.28
- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第8回講義・演習・実習をつなぐハイブリッド授業を実施し, 2021.6.28
- 西村礼子：看護教員のICT活用教育力UP講座 第7回LMSを活用したjust-in-time-teachingによる授業を実施し, 2021.6.28
- 太田雄馬, 西村礼子, 足立容子, 横山美樹：vSim® for Nursingを活用したシミュレーション教育による代替, 2021.3.26

researchmap

礼子 (Nishimura Ayako) 更新日: 10/30

ホーム 研究キーワード 研究分野 経歴 論文 MISC 書籍等出版物 講演・口頭発表等 担当経験のある科目(授業) 所属学協会

共同研究・競争的資金等の研究課題 社会貢献活動

メニュー

マイポータル

研究ブログ

資料公開

基本情報

東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 准教授
東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 看護実践開発学 准教授

学位
看護学博士(東京医科歯科大学)
看護学修士(東京医科歯科大学)

連絡先 a-nishimura@thcu.ac.jp 研究者番号 10757751
J-GLOBAL ID 201901005555143260 researchmap会 員ID B000355393

研究キーワード 7
看護教育 授業設計 ICT アクティブラーニング フィジカルアセスメント シミュレーション 臨床判断

研究分野 3
ライフサイエンス / 臨床看護学 / フィジカルアセスメント、臨床判断
情報通信 / 学習支援システム / ICT
ライフサイエンス / 基礎看護学 / 看護教育

経歴 5
2019年10月 - 現在 東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 看護実践開発学 准教授
2019年4月 - 現在 東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 基礎看護学 准教授
2015年4月 - 2019年3月 東京医科大学 医学部看護学科 基礎看護学 助教
2010年4月 - 2015年3月 東京医科歯科大学 保健衛生学研究科 生体・生活機能看護学 TARA 実習指導教員 演習指導教員
2006年4月 - 2010年3月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 混合病棟 看護師

教育実践は教育業績エクセルではなく..

【教育実践】【教育成果】可視化

- ・担当科目・シラバス・授業内容の蓄積
- ・授業評価の可視化(学生・同僚・上司)
- ・公開授業一覧

看護実践能力基盤型システムによる学習・教育の構造・過程・成果の可視化

【主効果】

- 看護学生の学習成果・過程が可視化され、自己他者相互評価できる。
- 卒業時の教育内容と達成度の可視化(ディプロマサプリメント)として提示できる
- 教育の構造(DPから各科目到達)が可視化され、教職員・学生で学習目標と過程の共通認識が持てる
- 教職員の運営業務の時間数が大幅減少する

【副次効果】

- カリキュラムの中の重複科目や重複授業内容が整備される。カリキュラム編成につながる。
- 必要なICTツールの取捨選択となり、運営費のコスト削減になる。持続可能な教育につながる
- 放射線や薬物やICT活用能力などの専門教員が少ない授業の「連携開設科目」につながる
- 看護教育、看護教員、看護学生の質担保につながる

年度	スケジュールと項目
2021- 2022年度	<ul style="list-style-type: none">• 企業と『看護実践能力(コンピテンシー)基盤型システム』開発• システム要素決定(指定規則・技術項目と卒業時到達度、モデル校のCP・DP・その他項目意見聴取)
2022- 2024年度	<ul style="list-style-type: none">• 『看護実践能力(コンピテンシー)基盤型システム』試用版で複数モデル校で運用開始• システムを使用したモデル校の実績、評価、現状・課題分析、成果発表(各モデル校+統合成果)• 厚生労働省・文部科学省の看護系にICT・DX化予算導入検討とともにシステム導入校の拡大

組織

カリキュラム・マネジメント

教学マネジメント

各学生・各科目・各学年

学習成果

看護実践能力

ポートフォリオ(成果)

ディプロマサプリメント

各教員・各領域

教育成果

教育実践能力

ティーチングポートフォリオ

教育実践



学習成果(各学生)
看護実践能力・学習のポートフォリオ(過程)

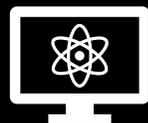
教育成果(各教員)
教育上の能力・ティーチングポートフォリオ(過程)

カリキュラム編成のシステム化
ディプロマサプリメント・カリキュラムマネジメント(構造)

自己評価
(学生・教員)

他者評価
(教員・学生)

組織・相互評価



学習のポートフォリオ
ティーチングポートフォリオ

Market Size

看護学生
約30万人

医学部を置く大学
81大学9360人

歯学部を置く大学
27大学29学部2672人

理学療法士
大学121校・専門145校・2年生8校・専門職5校14574人

作業療法士

診療放射線
技師

管理栄養士

臨床検査技師

衛生検査技師

視能訓練士

臨床工学技士

1組織800-2000万円??

看護職168万人
システム活用の期待

学習・教育の質保証・システマティックな教育にも対応
高大社接続(基礎教育と継続教育)
人材育成の仕組み

文部科学省:看護系大学数及び入学定員の推移 <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/12/mextnewgraduate.pdf>

文部科学省:医学部医学科の入学定員(令和3年度)https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1324090.htm

文部科学省:歯学部歯学科の入学定員(令和3年度)https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1324090.htm

公益社団法人 日本理学療法士協会:養成校数の数値<https://www.japanpt.or.jp/activity/data/>

2021/10/16accessed

Traction

教員A:科目評価やそれぞれの診断的・形成的・総括的評価はCSVファイルからエクセルデータに経年的・統合・評価していたが定量かつ自動分析可能な仕組みは素晴らしい

教員B:
学生が卒業段階で身につけた力を客観的に評価し、その成果を目に見える形で社会に提示する方法(ディプロマサプリメント)がLMSと同時変換されるのは素晴らしい

教員C:学生自身が学習の計画・過程・成果を自己評価し、就職試験や職場に持参できることで継続教育につなげられる。生涯学習の視点が身につく

教員D:これまで教育上の能力評価や教育実践力は可視化されていなかったし、そもそも評価基準の対象になっていなかった。教員と教育の質向上につながると思う

教員E:専門分野として教員数や学生数も少ない領域のため、なかなか教材開発が進んでこなかったが、コンピューター基盤型システムであれば他分野でも活用が期待できる

教員F:
学生・教員・組織がカリキュラムマネジメントを意識できる仕組みは、FD・SDに匹敵すると思う

ご連絡をお待ちしております！

【看護】
学生の成果・過程・構造の
モデル例を作成する研究者・
団体

【企業】
コンピテンシー基盤型
学習・教育システム
開発業者

看護実践能力(コンピテンシー)基盤型
学習・教育システム



看護実践能力(コンピテンシー) 基盤型システムによる 学習・教育の構造・過程・成果の可視化

西村 礼子

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 基礎看護学
/大学院医療保健学研究科 看護実践開発学

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17

TEL:03-5421-7655(内線402)

E-mail:a-nishimura@thcu.ac.jp

Ayako Nishimura,RN,PHN,PhD.

Tokyo Healthcare University

TEL: +81-(0)3-5421-7656 EXT:402

E-mail:a-nishimura@thcu.ac.jp

